

関西いのちの電話



こころがつかれたら…06-6309-1121

自殺予防いのちの電話(フリーダイヤル)
0120-738-556
毎月10日 午前8:00 ~ 翌日午前8:00

吉香公園：山口県岩国市錦帯橋の近く
撮影：中村伊三信



創立40周年を迎えて

関西いのちの電話 事務局長 八尾和彦

1973年9月25日午前0時過ぎ、相談員1期生のひとりが受話器を取った。これが“よき隣人となる”関西いのちの電話の始まりだった。いのちの電話は、日本では組織的なボランティア活動のパイオニアであったと言っても過言ではない。養成講座を修了し認定された相談員が毎年新たに活動に参加し、先輩から後輩に引き継がれて、いのちの電話の活動は続いてきた。その中で大きなうねりとなったのは、やはり、1995年阪神・淡路大震災であろう。震災を契機にボランティア活動が大ブレイクし、ボランティア元年とも言われた。このとき関西いのちの電話も例外ではなく、養成講座に申込が殺到し講座は受講生であふれんばかりとなった。「自分も何かしなければ…電話で寄り添うことなら私にもできるかも…」さまざまな想いをもって相談員を志す人たちが集まった。そして、その3年後の1998年、年間自殺者数は激増

し、その数は3万人を超えた。相談員を志す人たちの中にも、家族、友人、知人が自死された方も少なくなかった。「大切な命が絶えてはならない…あの時は友人に何もできなかったけれども、今はそれを償うような気持ちで相談員に…」

1995年をピークに、養成講座受講者数は毎年増減をくり返しなが、大きな流れとしてはしだいに減少傾向をたどった。そして、それが顕著になったのは2011年東日本大震災以降のことである。なぜなのか。東日本大震災がボランティアの動向に何らかの影響を与えたのだろうか。ボランティア活動の多様化、近年の自殺予防活動の強化・拡大で人が拡散しているのだろうか…と思いを巡らしていると、「40年を経た今、いのちの電話の活動のありようにもしっかりと眼を向けなければならぬ時が来たのでは…」という思いが駆け巡る。

第31回いのちの電話相談員 全国研修会 おおさか大会

大会テーマ：わすれてへんで、あんたのこと ～みんな誰かの大切な人～

開催日：2013年10月25日～27日 会場：大阪国際交流センター ほか



〈驚田氏の基調講演〉

「第31回いのちの電話相談員 全国研修会」は、関西いのちの電話が32年ぶりに主催しました。開催初日、台風の接近により、最悪の場合は、開催中止の恐れもありました。午前中、大阪市内は強い雨脚でしたが、幸い交通機関に大きな影響が無く、予定通り開催することができました。大会を通して全国から約830名の相談員が参加し、無事成功裏に終えることができました。

大会初日は、オープニングコンサートで幕が開き、開会式に引き続き、驚田清一氏による基調講演「自分を贈りあう関係」を開催しました。その夜は国際交流センターの近くのホテルで516名の相談員が一同に会する懇親会を開き、大阪らしいアトラクション「河内音頭」で会場は盛り上がり、楽しく相談員同士の交流が深まりました。

二日目は、分科会・ワークショップ24講座を用意し、約800名の参加者が思い思いの講座に別れて受講しました。講座によっては、人数制限で第一希望の講座を受講できない人も多くいましたが、受講した講座で何らかの学びや気づきを得られ、「講座の内容が良かった」との声が数多く報告されています。その後、夕方から1時間、「なにわのたそがれタイム～いっぺん見てみて～」のタイトルで、研修の疲れを癒すユニークな三つの出し物を催しました。いずれも大阪ならではの企画だったと多くの声が届いています。

最終日は一般公開のトークセッションと閉会式。トークセッションは、湯浅 誠・香山リカ・オキタリユウイチの三氏に、「明日(あした)へ ～いのちと向き合う現場から～」のタイトルで、自由に語り合っていたいただき、100名近くの一般市民の方にもご参加いただきました。閉会式の最後に、「大阪締め」で大会を無事に締めることができました。



〈大阪締めで大会を無事に終える〉

大会までの2年間弱、多くの相談員の力を結集して準備を進めました。「被災者、社会的弱者、マイノリティーへのメッセージ」を「学び」の講演・講座の企画に盛り込み、「大阪らしさとおもてなしの心」を「交わり」の催し物の企画に表現し、スタッフが知恵を絞って企画しました。参加者アンケートの結果によると、9割が「満足」という非常に高い評価をいただき、準備期間のすべての労苦も報われる思いです。本大会開催にご協力いただいたすべての方々から感謝申し上げます。(広報委員会)

関西いのちの電話 創立40周年記念
第32回公開講座 NHK歳末助けあい配分金による事業



寄り添うこころ 音楽の力とユーモア

講師 アルフォンス・デーケン氏
上智大学名誉教授、死生学

日時：2014年2月16日(日)午後1時30分(開場1時)
会場：大阪YMCA国際文化センター大ホール
(大阪市西区土佐堀1-5-6 大阪YMCA会館2F)

1959年来日。長く上智大学で教鞭を取り文学部人間学研究室で「死の哲学」、「人間学」、「生と死の教育」の講座を持つ。死生学においては我が国の代表的な学者である。

2003年に上智大学を定年退職し上智大学名誉教授の称号を得る。2003年以降はドイツへ帰国し研究生生活を経てふたたび来日。以後、日本各地で講演活動を行う。来日して哲学や人間学をベースに死生学を展開。日本で初めて「死への準備教育」の必要性を説く。

第18回 チャリティーコンサート 天満敦子ヴァイオリンコンサート

今年は、関西いのちの電話創立40周年を記念して、ヴァイオリニストの天満敦子さんをお招きすることができました。緋のワンピースに、腰まで届きそうな長い黒髪。ダンナさんと呼ぶストラディヴァリウスをブラブラと提げて登場された天満さん。演奏が始まるや、時に清澄な、時に激しく、また哀愁を帯びた音色に魅了されて、知らない間に涙が溢れました。プロデューサーの日下部吉彦氏とのトークで垣間見られた、天満さんの人懐っこい一面。うつになって自殺を考えていたマネージャーの知人が、いのちの電話で助けられた話や、各地のいのちの電話で演奏会をされていることなど、私達の活動への理解の程も示して下さいました。伴奏者の石井理乃さんの演奏も秀逸でしたが、無伴奏の音色はさらに心に沁みるものがありました。来場者のお一人からの感想をご紹介します。



『月の砂漠』—ヴァイオリンだけで聴く『月の砂漠』しかも、ピアノツシモ。辺り一面、何も無い。月の明かりに照らされて、砂漠の広がりが見える。砂漠の中にひとりているのに、怖くない。温かな世界が広がっていた。涙ぐみ、素直になっている自分がいた。ヴァイオリンの音色がこんなに素晴らしいと感じたのは初めてだった。『月の砂漠』が、こんなに心を打つ曲だとは知らなかった。

いずみホールで、700人を越す多くの方が、じっとヴァイオリンの音色だけに耳を傾けている様子は感動的でした。サイン会にも、大勢の方が並ばれて、Tシャツの背中へのサインにも気軽に応じて下さる姿に、気取らない、温かい人柄が表れていました。再演の声も多く頂きありがたい限りです。コンサート開催を通じて多くの方々から募金、ご支援、ご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。
(事業企画委員会M.S)

第二回 関西いのちの電話 全体集会

7月6日(土)、「第2回 関西いのちの電話 全体集会」を開催しました。今回は、10月の全国研修会開催を目前に、昨年よりも上回る59名の参加となりました。第一部では、全国研修会の各タスクチームから準備状況について報告、第二部では、初日の懇親会で踊る河内音頭と最終日を飾る大阪締め練習を行いました。予行演習ではありませんが、本番さながらの盛り上がりとなり、参加者全員で「おおさか大会」の成功を誓う絶好の機会となりました。参加者アンケートの結果、来年以降の開催について、相談員同士がより交流しやすいように時間配分等の工夫が要望されました。今後も恒例行事として7月の第一土曜日に開催する予定です。



河内音頭に合わせて踊りを練習

(全体集会開催実行委員会 T.M)

創立40周年記念バザー盛會に終える

11月9日(土)、秋晴れの空の下、創立40周年記念バザーが開催されました。会場である教会の中には、色々な提供品が所狭しと並べられ、真剣に品定めをされる方も多く、一時は入場制限をさせていただくほどの盛況となりました。バザーの開始前から並ばれる方や、購入されたものをたくさん抱えた方々。その中のお一人に何うと、「十三の知人から紹介され、毎年楽しみにしている」とのこと。地域に根付いた催しとなっていることに改めて感謝いたしました。



中庭では、食べ物や飲み物を手に語らう方々や、ゲームや工作に夢中になる子供たちの歓声も聞こえました。午後からは、昨年同様、ドジョウ掬いの踊りと「天然デンネズ」のミニライブで盛り上がり、盛會のうちに終えることができました。

バザーにご寄贈いただいた下記の企業様に、心からお礼申し上げます。

(株)江崎グリコ、(株)近江兄弟社、(有)なかの、
(株)ダイドー繊維、(株)東リ、ミートショップ丸清(敬称略)
(バザー委員会H.O)

歳末募金のお願い

24時間・365日「眠らぬダイヤル」として相談活動をおこなっています。活動資金が必要です、いのちの電話の活動を支援してください。

お振込先 ※社会福祉法人へのご寄付は税制上に優遇されます。
口座名義：社会福祉法人・関西いのちの電話
口座番号：ゆうちょ銀行・郵便局 00990-3-68480



傾聴と共感 (14)

「電話相談の場での2つの関心」

電話相談員は聞き手として、受話器を持ち、かけ手の訴えに耳と心を傾け、理解し、受容しようと試みています。それを「相談の場」、かけ手と聞き手が電話で対話をしている「関係の場」としましょう。その場で聞き手は2つの関心を持ちます。

ひとつは、相手が言葉で伝えようとしている事柄つまり相手が直面している問題や課題、家庭や職場の状況、人間関係の様子、自分の健康や経済的な問題など。さらには「死にたい」と言っている相手の背景の問題などへの関心です。

その関心は、相手の問題を出来るだけ詳しく知りたいという欲求になって現れてきます。病院での問診に近い形で、相手に質問を浴びせ、その情報をもとに相手の問題は何か、課題は何か、このような病気ではないのかと、分析や診断とは言わないまでも、聞き手が相手の問題の見立てをしようとしてしまいます。それをもとに、どんな応答が正解かと考えようとします。この関心は、電話相談員がいわゆる専門家になる危険性をはらんでいます。

もう一つは、電話でつながっているかけ手と聞き手の「今、ここ」の「関係の場」に起こっていることへの関心です。

電話でつながっている「今、ここ」で相手の話している声や態度、その背後にある相手の気持ちや感情あるいはその奥底にあるその人自身の深い想いに耳を傾け、聞き手の想像力を駆使して相手の本当の訴えを受け取ろうとすることです。

それと同時に、聞き手自身も相手の伝えることに反応して、自分の気持ちが揺れ動きます。素直に聴けたり、嫌な気持ちになったり、涙が出てきたり、様々な気持ちの二つの間で起こっています。

これを「プロセス」といい、これに気づくことはちょうど鳥が空から見ているように、かけ手と聞き手である自分の間に、どのような感情が往き来しているかを、観察し、「今、ここ」の関係に起こっていることを見極めることなのです。

「第3の眼を持つ」とも言いますが、これによって、かけ手の感情に寄り添う応答が、聞き手の内なるところから湧き起こってくるのです。

電話相談の研修は、この「第3の眼」を育てることに重きをおいています。(長尾文雄)

ボランティア募集中 - あなたも私たちの活動に参加しませんか -

第50期電話相談員養成講座のご案内

募集期間：2014年2月1日(土)～3月15日(土) 養成期間：1年目 2014年4月～2015年3月 / 2年目 2015年4月～2016年3月
 内容：1年目は、1泊研修(1回)・週1回の講義またはケース研究・実習(講義は毎週木曜日・午後6:30～8:30)
 2年目はインターンとしての実習とスーパービジョン及び各種研修

社会福祉法人・関西いのちの電話

電話：06-6308-6868 <http://www.kaindnew.com>

《募集要項は事務局までご請求ください・ホームページからもダウンロードできます》

関西いのちの電話
40周年記念公開セミナー

聴く力を育てる講座

5回の講座はロールプレイを取り入れた実践的な内容です

- I、1月17日・金 **ロールプレイを通して聴く力を養う**
安田一之 大阪学院大学・国際学部教授
- II、1月24日・金 **大切な人と、こころを伝えあえていますか**
長尾文雄 大阪女学院大学・短期大学講師
- III、1月31日・金 **実際にやってみよう、誰にでもできる傾聴**
井上文彦 元大阪女学院大学教授
- IV、2月7日・金 **聴く人、語る人のスピリチュアリティ**
伊藤高章 桃山学院大学・社会学部教授
- V、2月14日・金 **自己と他者の上手な関係づくり**
齋藤 壹 日本聖教会・大阪教区司祭

* 講師は相談員の養成、研修の指導に携わっています。

日時：2014年1月17日～2月14日までの
毎週金曜日 18:30～20:30

場所：ドーンセンター 中会議室
(大阪市中央区)

募集人数：36名(定員になり次第、締め切り)

費用：5,000円(全5回分 一括払い)
納入後払い戻しはできません

講座料振込先：ゆうちょ銀行
口座番号：00990-3-68480
口座名義：社会福祉法人 関西いのちの電話
申込締切：2014年1月10日(金)

電話相談受信状況

受信月	6月	7月	8月	9月	10月
受信件数	2,092件	2,141件	2,200件	1,947件	1,774件
相談員数(延)	509人	508人	516人	482人	451人

編集後記

大型台風の接近で、全国研修会の中止を覚悟した一瞬がありました。「2年近くかけて準備してきたのに…」と思った時、浮かんだのは震災で全てを奪われた方々のことでした。(T.H)

社会福祉法人 関西いのちの電話

事務局 〒532-0028 大阪市淀川区十三元今里3-1-72
 TEL 06-6308-6868 FAX 06-6308-6180
 発行人 李 清一 編集 広報委員会
 ホームページ <http://www.kaindnew.com>